

1. 亜鉛の地球化学図

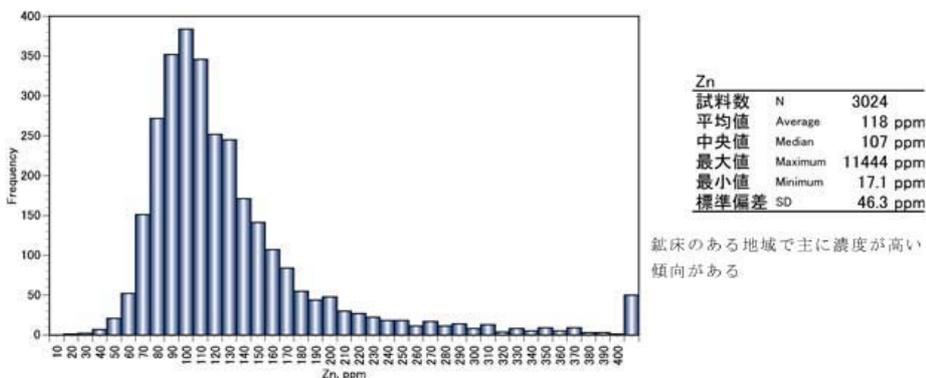
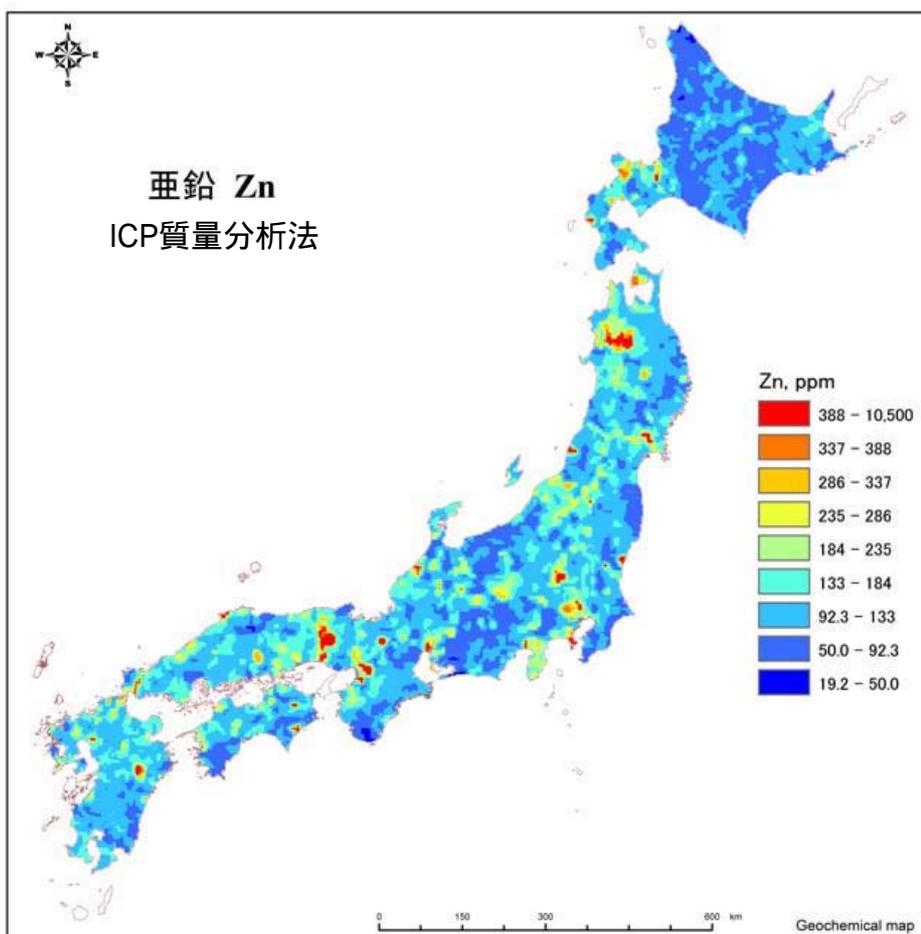
(出典) 日本の地球化学図 : 産業技術総合研究所地質調査総合センター、2004

概要

試料: 河川堆積物

採取密度: 1試料 / 10 × 10km

試料採取点に関する流域解析を行い地理情報システムを用いて元素濃度分布を推定している。



地球化学図を使用するにあたっての注意点(日本の地球化学図より)

1. 試料採取密度が10 × 10kmに1試料である。
2. 大都市の市街地では試料採取を避けている。
3. 値の変動は通常1 / 2 ~ 2倍程度場合によってはさらに大きい。
4. 最大値と最小値の表示は補完しているため実際の値とは異なっている。

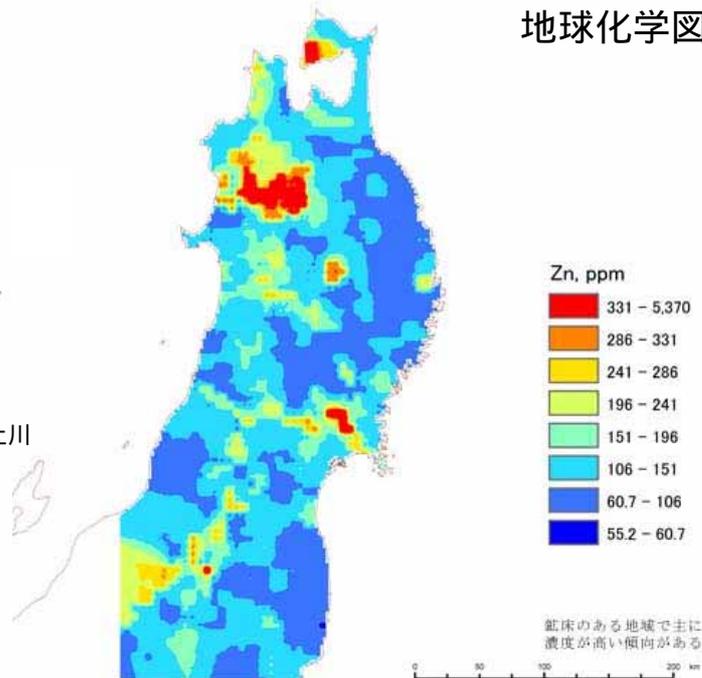
地方の地球化学図(亜鉛)

東北

地形図



地球化学図

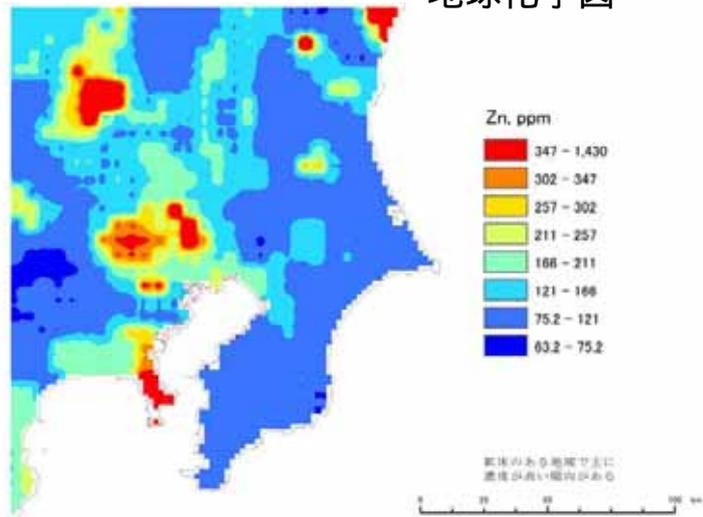


地形図

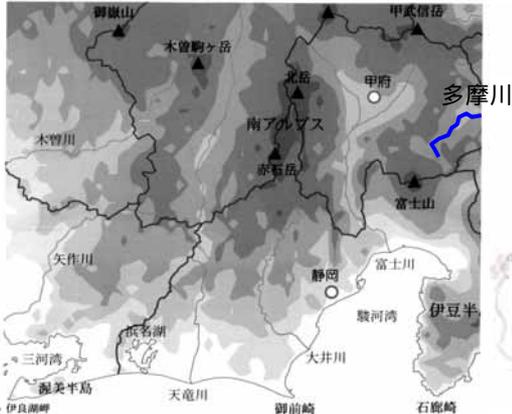


関東

地球化学図

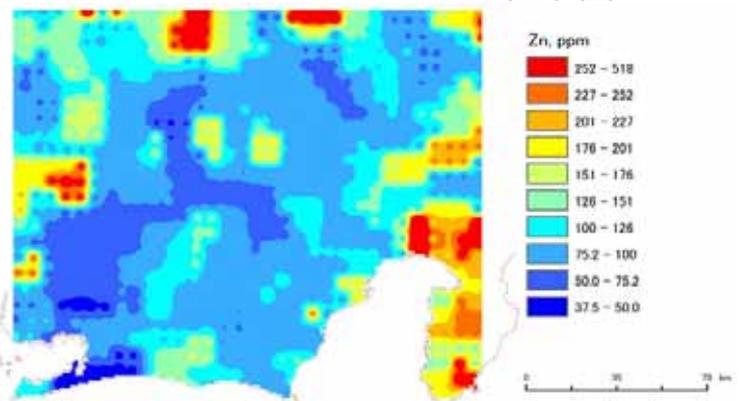


地形図



東海

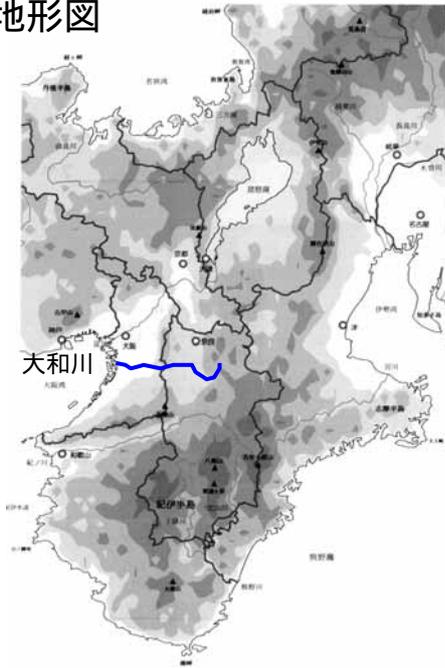
地球化学図



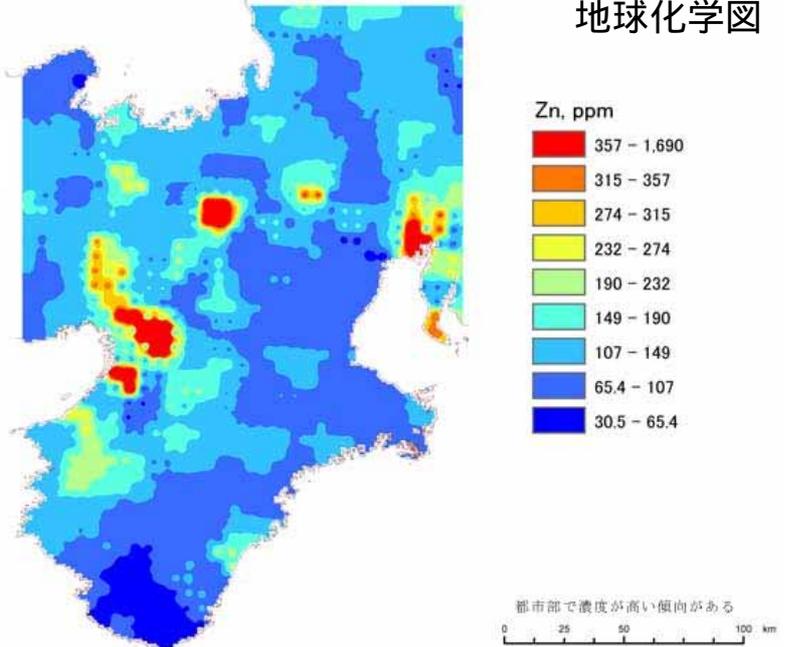
地方の地球化学図(亜鉛)

近畿

地形図

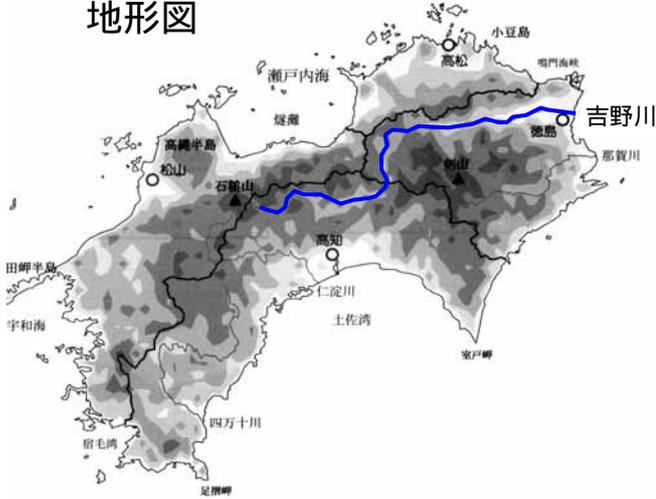


地球化学図

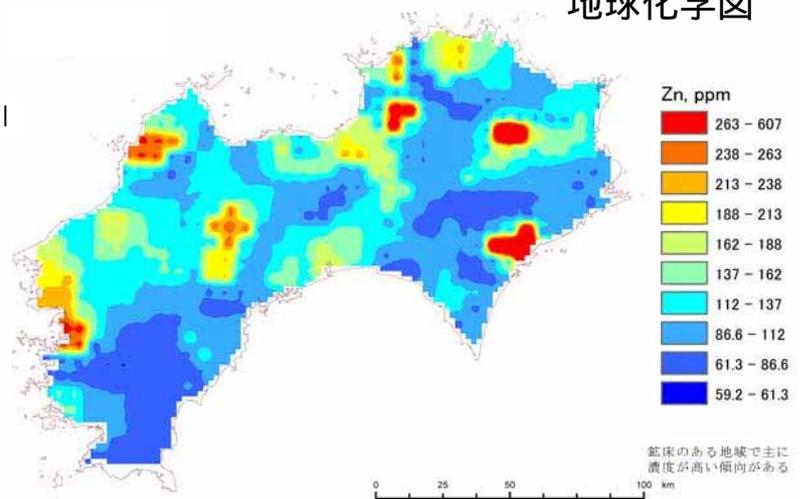


四国

地形図



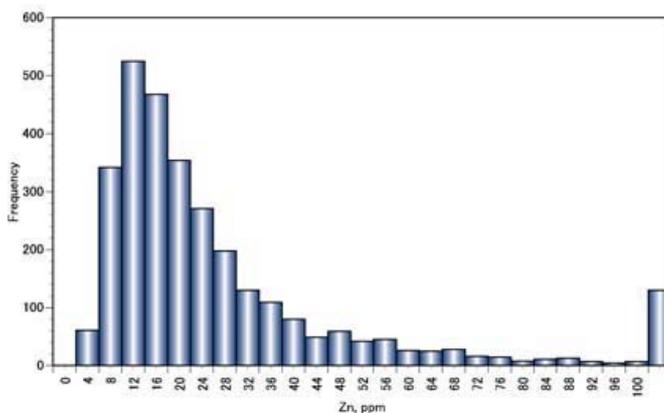
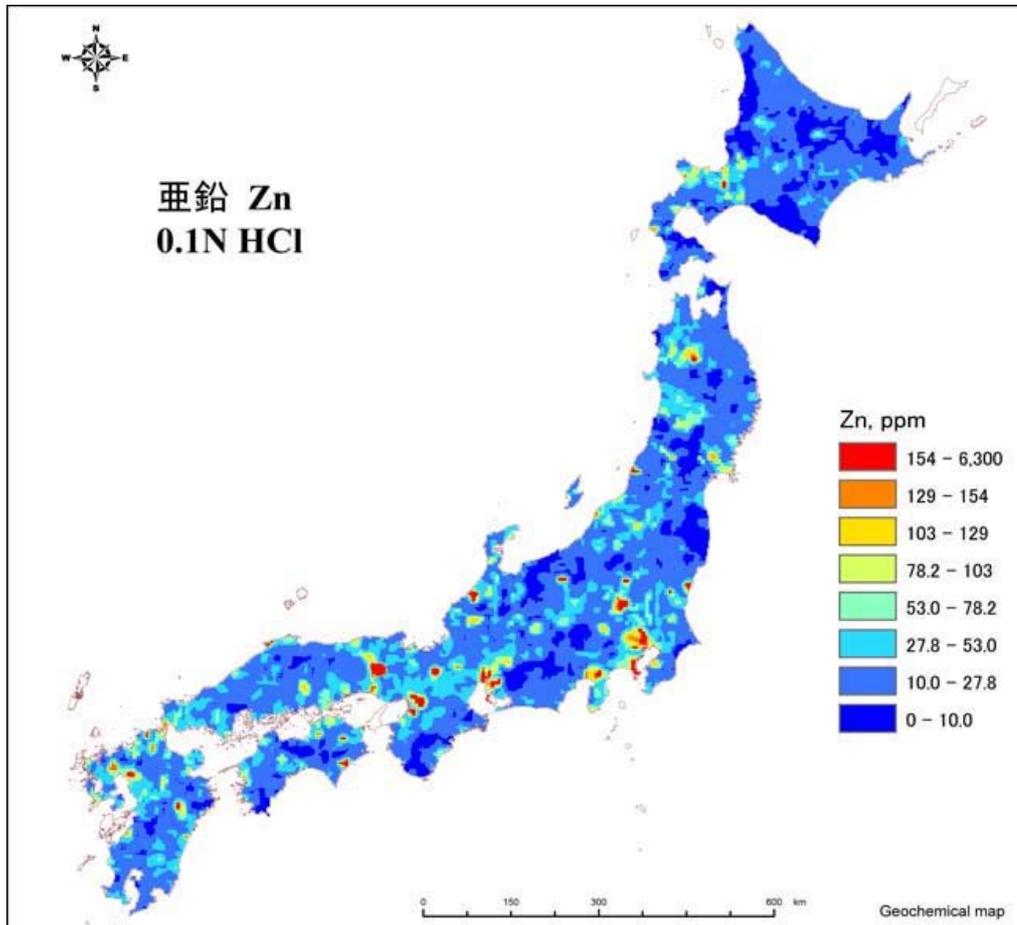
地球化学図



(参考) 0.1N塩酸浸出法による亜鉛の地球化学図

(出典) 日本の地球化学図 : 産業技術総合研究所地質調査総合センター、2004

全量分析ではなく、希酸(0.1N)に可溶性元素濃度として、別途分析



Zn		
試料数	N	3024
平均値	Average	21.0 ppm
中央値	Median	17.1 ppm
最大値	Maximum	6879 ppm
最小値	Minimum	<DL ppm
標準偏差	SD	15.4 ppm
中央値(全分析)	Median (TA)	107 ppm

TA: Total analysis

鉱床のある地域で主に濃度が高い傾向がある